



三池にまなぶ婦人集会終る

交流の中で暖い連帯が

第十回「三池にまなぶ婦人集会」は、六月五日から七日までの三日間大牟田労働福祉会館を中心に開かれ、夜は三池の総合員・主婦会員宅に民泊、二十個所で交流が行われました。全国からの参加者は、子供連れや事務局を含めて百二十八人。主婦会へのカンパや「守る会」への加入など、暖い連帯の輪が広がりました。

夜の更けるのも忘れて

主婦會組織部長 齊藤清子

真劍だった婦
人たち

季節の風物詩アジサイ。城島高原ニューグランドホテルの前庭に二百メートルにわたって色あざやかに咲いていた。カラーでお見せできないのが残念。24・25分会の委員・分会長の一泊旅行で。

「三池にまなぶ婦人集会」は、組員・主婦会員の協力を得て無事終えることができました。ありがうございました。

早いもので今年で十回を数えますが、各地域も会員が少なくなつた中で、受け入れや交流も大変だつたと思います。

北は北海道から南は沖縄まで、の姿も力強いものです。

「三池の闘い」の映画を見て涙を流し、民泊先での交流の中で、家族ぐるみの闘いの話や、一万円生活、ＣＯ闘争の話、差別に耐えて定年まで頑張る組合員の話など、夜の更けるのも忘れて話し込む主婦たち。きびしい職場や家庭のこと、仲間たちとの連携など、うとする姿は真剣そのものでした。

三池主婦会も来年は精成三十周年を迎えます。三十年前までは主人たちの労働運動すら理解できなかった私たちが、運動の中で労働者の敵はだれかを見きわめる力をもつようになりました。

多くの仲間と

連帶を

なる思い出話ではなく、私の中で
 気持ちとしては変わっていないと

三池闘争の時、私達は一人では絶対にたたかえないこと、一緒に力を合わせる仲間がいかに大切かを、身をもって体得してきた。

相次ぐ合理化や、軍事大國化へ

私のこと

第に読みあさり、判らぬままに友達と人生を語った——。というふうに、平々凡々と育った。

昭和三十年、三池炭鉱で働く夫と結婚し、三池主婦会の一員となる。それ以来、資本家とは何か？ 真の労働者とはどうあるべきか、まわりの主婦会員の方々と一緒

東ブロック 中原千春

のごまかしにも乗らない、したたかさには育ててくれたものの、日々生活のきびしさに追われるこの

宮沢賢二の「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ」の詩のように、分會の中に病人があればみんなで心配していることを痛切に反省している。この頃である。

同じように気を配った。これは単



「まなぶ婦人集会」の開会集会のもよう。この日、三池労組を代表して中原書記長が歓迎と連帯のあいさつを行なった。三池に集まった婦人たちのこんごの活動が期待される。

七月の生活メモ

七月の生活メモ

武、大阪球場で。

○…今年の梅雨はシトシトでは
なく、晴れの日もある代わりに局
地的な大雨がドツと降る陽性型と
いわれます。上旬には中部日本や
日本海側で大雨が降るおそれがあ
ります。梅雨明けは平年並み(十
五〜二十日) かやや早くなる見込
みです。梅雨明けとともに暑くな
りますが、今年の夏は短かそう。

○…中元とは、陰暦七月十五
日、善惡を見分け、人間を愛して
罪を許す地の神の誕生を祝う中国
の祭でしたが、日本に渡ってきて
いつの間にか贈答品の交換のしき
りに変わつてしまいました。お
世話になった人たちに誠意を示す
のはよいけれど、見得や虚礼は
「地の神」にしかられませんぞ。

○…文月(ふみつき)。一日か
ら全国安全週間。四日から大相
撲七月場所(十八日まで)、名古
屋)。七日は七夕。十五日がお
盆。土用の入りは二十日で、ウナ
ギを食べる丑の日は二十九日で
す。プロ野球オールスター戦は二
十四日から三日間、後楽園、西
月末には北日本に大雨が。

【連合】

質問にこたえて

厚生部から

さきに行われました主婦会の交流座談会の中で、いくつかの質問が寄せられていましたのでお答えいたします。

三井三池健保では、その額を六

① 杜宅管理費について
今年二月の労働・福利厚生の中
に交渉の中で、組合は撤廃を要求
しています。

しましたが、会社は現行五百円（月額）を引上げる逆提案を行い、組合では、健保が赤字であると理由で収入や年金の限度額を

(イ)アパートと四級社宅	千円	低くして、取り消したり、任意継続や五十五条給付者の医療打ち切りなどの苦情が多いので、健保に
(ロ)五級社宅	七百万円	ついての対応を強め、近く具体的に
いその他の社宅	五百万円	で強行しているものです。

②被保険者の取り消しについて 話し合いをすることにしています。

短歌
梅雨の前

二十分会(三川)町 佳郎

保安幘かむいしおみな陽を背（せな）に車道ポイントに油さしおり
はやも花つけしきゆうりに頬杖を立てつつ楽し仕事より帰りて
あしたに子が捕えたる虫いくつ夕べには放ちやるかわいそうといいて
伸び立ちし木々の群葉を剪らんとし用あればそのままに今日も過ぎたり
家（や）うつりの加勢もなさず風邪に臥し三日が程をうつと過しぬ
予報など当らず過ぎゆく暑き日々昼たけて気温は三十一度を指す
夏風邪をひきて萎えいる吾子連れ陽落ちし病院への道を急げり
ようやくに梅雨に入るらし枯れ初めし木蓮の広葉に降りしきる雨
いく日振りに雨の降れば忘るるなと傘持たせやるみたり子に妻の
悪しき夢見しかおびえつつ寄りてくる吾子だきしむる夜半のふしどに